

ひかり野

佐賀大学附属図書館報 No.32



佐賀大学附属図書館蔵 洋学資料コレクション
 「草木花実写真図」(前3枚)「蘭学階梯」(背面)
 (解説は19-20ページ)

●貴重資料

平成16年、岡本悟元佐賀大学附属図書館長のご厚意により1,000万円の資料購入費をご寄付いただき、附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会において審議の結果、以下の資料を購入いたしました。

1. 洋学資料コレクション

希少性がある貴重な洋学コレクションであり、我が国洋学発達史上、いずれも学術的価値のある資料である。

『和蘭字彙』桂川甫周国興編 13冊

本資料は、江戸時代に刊行された最大最良の蘭日辞典である。編者は幕府侍医桂川甫周国興（1826～1881）。原資料はオランダ商館長ヘンドリック・ズーフの編纂した蘭日辞書『ズーフ・ハルマ』で天保4年（1833）に完成したが、これは幕府への献上本であったため、一般にはほとんど流布せず、嘉永2年（1849）佐久間象山が刊行を企てたが許されなかった。桂川甫周国興はペリー来日の機会をとらえ、蘭日辞書の刊行を幕府に進言し、安政元年（1854）に刊行許可を得た。本書は見出し語をオランダ語で説明し、さらに和訳するという表記のしかたである。およそ5万語が掲載されている。

『草木花実写真図』川原慶賀著・画 4冊

本図は、シーボルトの絵師川原慶賀（1786～？）の草木図写生画を集大成し刊行したもの。明治期の刊本であるが、極美麗希少本である。シーボルトは日本研究のなかでもとくに動植物の採集に熱心であり、川原慶賀はその眼として動植物を忠実に写生したことがわかる。シーボルト研究だけでなく、江戸時代植物・本草研究等にも有益である。



『西遊旅譚』 司馬江漢 享和3年（1803） 5冊

江戸後期の洋風画家司馬江漢（1747～1818）の江戸一長崎往復の旅日記。天明8年（1788）4月23日から寛政元年（1789）の4月13日まで、およそ1年間の旅の記録で、各地の景観、地理、風俗、民衆の姿などが多くの自筆挿画とともに生き生きと表現されている。当時の様相を知る好資料。

『蘭学逡』 藤林淳道 1冊

オランダ語入門書。稲村三伯の蘭日辞書「ハルマ和解」簡略版。「和解」が「アルス如、アルス則、アルス自、アルス時」と一語に一義をつけたのに対し、「アルス如、則、自、時」というように、一語に多義をつけたことが大きな特徴。

『和蘭産物考』 5冊 寛政10年（1798）

本資料は、オランダの地理・風俗で、とくにジャワのオランダ人の資料が多い。秋里籬島の寛政8年5月の後序があり、「親しく実見したもの」とある。

『蘭学階梯』 大槻玄沢 天明8年（1788）2冊

本資料は大槻玄沢（1757～1827）が書いた蘭学入門書。蘭学興隆のきっかけをなした書物である。本文は蘭学の始まり、蘭学を蛮夷の説とすることの不当、蘭学のススメ、オランダ語の用法等蘭学学習全般にわたって解説しており、蘭学啓蒙普及に大きく貢献した基本書である。

『和蘭薬鏡』 宇田川玄真 6冊

本資料は宇田川玄真（1769～1834）が、ドドネウスやウエイランドなどのオランダの本蔵書や薬説20余部から抄訳し、和漢の本草と比定したもの。各品の形状・効能・治験・製剤などを記している。西洋薬が入手しにくい時期の蘭学者によって、大変有益な書となった。

2. 大内文庫

平成15年9月に亡くなられた、鹿児島大学名誉教授・文学博士、大内初夫氏が収集された俳諧書類で、江戸時代（元禄期）から明治中期にかけての俳諧書298点445冊、俳諧書複製本23点、軸物18点、器財（文台）1点を内容とする。

大内文庫は元禄8年刊『水仙畑』・同10年刊『掃除坊主』などの古版も含むが、多くは江戸中・後期の俳書を主とする。その中には、「国書総目録」に載っていない版本60点余、注目すべき貴重な写本10数点も含まれている。また、半数近くが九州関係俳書であることが特筆される。大内文庫の特色を、九州に焦点を定めた、全国唯一の俳諧コレクションだと称しても過言ではない。

含まれる俳書は、近世中・後期を例にとると、美濃派・淡々系・花の本系など予想されるすべての俳系が網羅されている。さらに明治の旧派俳句の俳書も集められている。従って、大内文庫は、近世中・後期から明治中期にかけての俳壇の連続的推移を考察し得る資料がそろっていることになる。つまり、大内文庫の九州俳書を見ることによって、俳諧というジャンルの、近世中・後期から明治に至る史的展開をたどることが可能になる。